

〈こども園 健康〉

## 進んで多様な動きを楽しむ幼児の育成

— 互いのイメージを共有する戸外遊びの環境構成と援助の工夫 —



浦添市立 当山こども園 國場こずえ



# 目次



I	テーマ設定理由	1
II	目指す子ども像	2
III	研究の目標	2
IV	研究仮説	
1	基本仮説	2
2	作業仮説	2
V	研究構想図	2
VI	研究内容	
1	幼児期の運動について	3
2	多様な動きについて	4
3	環境構成について	4～5
4	援助の工夫について	5～6
VII	保育実践	
1	検証保育の全体計画	7
2	検証保育	7～8
3	本時の保育実践	9～10
VIII	研究の考察	
1	作業仮説(1)の検証	11～13
2	作業仮説(2)の検証	14～16
3	本研究を通して	16
IX	研究の成果と課題	
1	成果	16
2	課題	16
	主な参考・引用文献	16

## 進んで多様な動きを楽しむ幼児の育成

### －互いのイメージを共有する戸外遊びの環境構成と援助の工夫－

浦添市立当山こども園 國場 こそえ

#### 【要約】

本研究は、幼児が戸外遊びにおいて友達とイメージを共有して遊ぶことができる環境構成と援助の工夫を行うことで、多様な動きを経験することができるように目指したものである。

キーワード □多様な動き □イメージを共有する遊び □戸外遊び □主体的な遊び

#### I テーマ設定の理由

高度情報化や科学技術の進展により、幼児を取り巻く環境は大きく変化している。また、新型コロナウイルスの感染拡大により幼児の生活様式は、室内で過ごす時間が増え、思い切り体を動かす機会が減少した。このことは、運動不足を引き起こし、幼児の身体諸機能の発達に少なからず影響していると考えられる。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(H30,以降,教育・保育要領)では、領域「健康」において、幼児期は身体諸機能が著しく発達する時期であり、幼児の興味や能力などに応じたいろいろな遊びの中で十分に体を動かすことが大切だとされている。また、戸外に出て遊ぶことで、全身を思い切り使ったり、自然環境に触れたりすることができることから、戸外遊びの必要性についても述べられている。

また、幼児期運動指針(2012)では、幼児期に様々な遊びの中で多様な動きを経験し、基本的な動きを身に付けていくことは、生涯の健康を維持する上で大切な基盤となることが示されている。そのため、保育教諭等は、幼児が特定の遊びに偏ることなく、自発的に様々な遊びを楽しめるよう工夫することが求められている。

本学級の幼児の実態として、新型コロナウイルスの感染拡大により、家庭でゲームや動画視聴をして遊ぶ時間が増え、戸外に出て体を動かして遊ぶ時間が減ったという保護者の声があった。そのような幼児の中には、戸外に出て遊ぶことより室内遊びを好み、運動遊びにも意欲的でない子がいる。一方で、進んで戸外に出て遊ぶ子や運動遊びが得意な子もいるが、興味の

ない遊びにはあまり関わろうとせず、特定の遊びに偏っている姿が見られる。

これまでの保育実践を振り返ってみると、戸外で体を動かす遊びにおいて、竹馬、フラフープ、なわとび等、特定の運動遊びを保育教諭が設定することが多かったように思う。そこでは、幼児が自発的に様々な遊びを楽しむという環境構成の工夫が充分でなかった。戸外で幼児が多様な動きを経験するためには、戸外ならではの環境を生かし、様々な遊びの環境を作ることが大切だと考える。さらに、幼児が戸外での様々な遊びに主体的に関わるように幼児の興味関心に沿った遊びを工夫することが必要だと思われる。

本学級の幼児は、友達と室内でマットや椅子をつなげて家に見立てて遊んだり、ブロックを友達と協力して組み立てたりと、友達とイメージを共有して遊ぶことが好きである。そこで、戸外でもいろいろな道具や素材を準備し、それらを使って友達とイメージを共有して遊ぶことができるようにすることで、友達と様々な遊びを楽しみ、進んで戸外で体を動かすことができるのではないかと考える。さらに、遊びを振り返る時間を設け、幼児一人一人の遊びの様子や、体の動きの実態を把握し、幼児理解に基づいた援助を工夫することで友達とイメージを共有して戸外遊びを楽しみ、多様な動きを経験することができるのではないかと考える。

そこで、本研究では、幼児が友達と互いのイメージを共有する戸外遊びの環境構成や援助を工夫することで、進んで多様な動きを楽しむ幼児を育成したいと考え、本テーマを設定した。

## II めざす子ども像

戸外での遊びを友達と楽しみ、いろいろな体の動きを経験することで、健やかに育つ幼児

## III 研究の目標

幼児が、友達と互いのイメージを共有して様々な遊びをする中で、進んで多様な動きを楽しむことができるよう、戸外遊びの環境構成や援助について研究する。

## IV 研究仮説

### 1 基本仮説

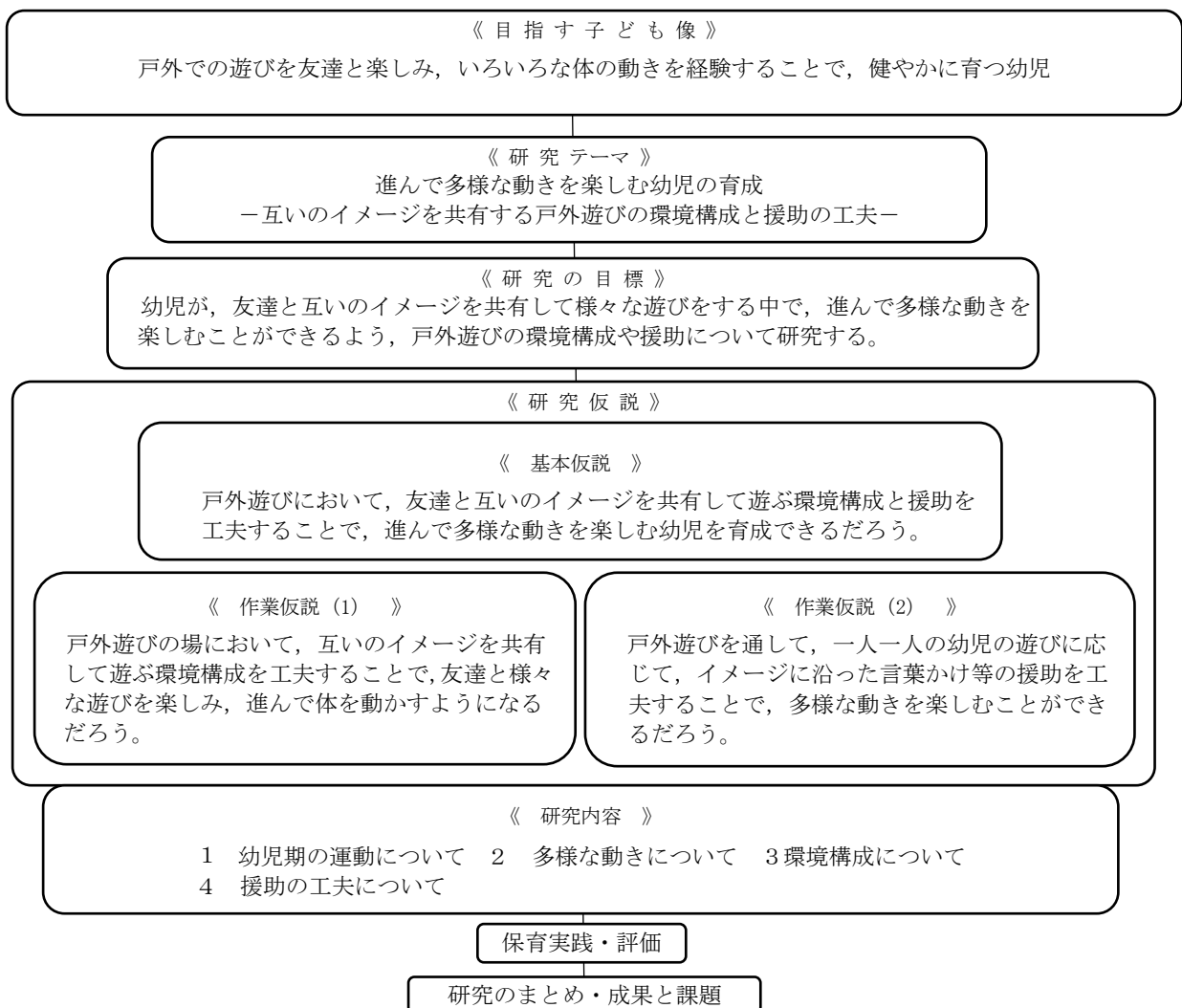
戸外遊びにおいて、友達と互いのイメージを共有して遊ぶ環境構成と援助を工夫するこ

とで、進んで多様な動きを楽しむ幼児を育成できるだろう。

### 2 作業仮説

(1) 戸外遊びの場において、互いのイメージを共有して遊ぶ環境構成を工夫することで、友達と様々な遊びを楽しみ、進んで体を動かすようになるだろう。

(2) 戸外遊びを通して、一人一人の幼児の遊びに応じて、イメージに沿った言葉かけ等の援助を工夫することで、多様な動きを楽しむことができるだろう。



## VI 研究内容

### 1 幼児期の運動について

#### (1) 領域「健康」について

教育・保育要領において、生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤は、幼児期に心と体を十分に働かせて生活することによって培われていくことが述べられている。こども園においては、幼児が保育教諭や他の幼児との温かい園生活の中で自己を発揮し、充実感や満足感を味わうことができるようにすることが大切であり、このような健康な心は、幼児が自ら体を十分に動かそうとする意欲や運動しようとする態度を育てる上でも大切であることが述べられている。幼児がいろいろな遊びの中で十分に体を動かす気持ちよさを感じながら、身体諸機能の調和的な発達を促されるようにすることが、こども園には求められている。

#### (2) 幼児期の運動発達段階と基礎的な運動

杉原(2014)は、ガラヒューの運動の生涯発達モデルをもとに運動発達の段階を4つに分けて説明している。その中で幼児期は基礎的な運動の段階だとし、この段階は人間の持つ全ての基礎的な運動を習得する重要な段階であり、その後の段階や生涯の生活の運動を支える土台となることを述べている。表1は杉原(2014)を基に筆者がまとめたものである。

表1 運動発達の段階

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①反射的運動の段階(胎児から1歳ぐらいまで見られる)</li> <li>②初歩的な運動の段階(誕生から2歳ぐらいまで)</li> <li>③基礎的な運動の段階(2歳から6・7歳ぐらいまで)</li> <li>④専門的な運動の段階(7歳頃から生涯にかけて)</li> </ul> |
|---|

人間の持つ基礎的な運動について、石河ら(1980)は、幼稚園での遊びの観察から全部で84種を提示しているが、杉原(2014)は園生活で保育者がより観察しやすいように幼児期に見られる基礎的な運

動として37項目にまとめている。表2は、杉原(2014)を基に、筆者が更にまとめたものである。

表2 幼児期に見られる基礎的な運動

(A) 姿勢・移動	(B) 操作
<ul style="list-style-type: none"> <li>・走る, 追いかける, 逃げる</li> <li>・登る, 降りる</li> <li>・跳ぶ, 跳びこす</li> <li>・ステップ, スキップする, はねる</li> <li>・すべる</li> <li>・乗る</li> <li>・ぶらさがる</li> <li>・寝転ぶ, 寝る, 起き上がる</li> <li>・くぐる</li> <li>・まわる</li> <li>・かわす</li> <li>・踏む</li> <li>・わたる</li> <li>・入り込む</li> <li>・ころがる</li> <li>・はう</li> <li>・逆立ちする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運ぶ, 動かす</li> <li>・持ち上げる</li> <li>・かつぐ, 持つ</li> <li>・積む, のせる</li> <li>・押す</li> <li>・投げる</li> <li>・掘る</li> <li>・ひく, ひっぱる</li> <li>・ころがす</li> <li>・ける</li> <li>・うける, 捕る,</li> <li>・うつ, たたく</li> <li>・まわす</li> <li>・振る, 振り回す</li> <li>・ささえる</li> <li>・こぐ</li> <li>・負う, おぶさる, 組む</li> <li>・しばる</li> <li>・たおす</li> <li>・つく</li> </ul>

これらのことから、幼児期に習得する基礎的な運動は様々な動きがあり、(A)姿勢・移動、(B)操作と分類されているように、どのような遊びや生活をしているかにより、生じる動きが変わってくるのが考えられる。こども園においては、これらの基礎的な運動を幼児が経験できるように、保育教諭は、人の体の動きにどのような種類があり、どのような遊びや生活をする、どの動きを経験できるか知っておく必要があると思われる。

#### (3) 幼児期に発達する運動能力

また、杉原(2014)は、筋力や持久力などの運動体力は青年期に最も高くなるが、幼児期は、運動コントロール能力が急激に発達する時期であることを述べている。そのため幼児期には、体力作りや筋力作りを目的とした特定の運動のみを続けるよりも、様々な運動を通して、運動コントロール能力の発達を促すことの方が大切だとしている。運動コントロール能力には3つの要素があり、それらの組

み合わせにより様々な基礎的な運動のバリエーションが生じる。図1は杉原(2014)を基に、筆者が作成した。

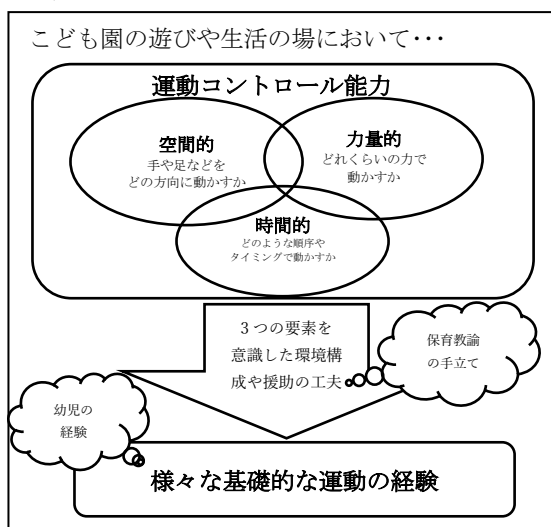


図1 こども園での様々な基礎的な運動の生じ方

本研究では、幼児が様々な基礎的な運動を経験できるよう、遊びの中で運動コントロール能力の3つの要素を意識した環境構成と援助を工夫していきたい。

## 2 多様な動きについて

### (1) 動きの多様化

文部科学省は、現代の社会において生活が便利になったことや、遊ぶ場や仲間、時間の減少などにより幼児の経験する動きが少なくなっていることを懸念し、幼児期に運動することの大切さを伝えるために幼児期運動指針(2012)を策定している。その中で、幼児が様々な基礎的な運動を習得していくことを、「動きの多様化」と表し、年齢と共に習得する動きが増大することであると説明し、幼児に運動を経験させる上で重要なキーワードであることを述べている。そして、幼児が多様な動きを経験できるように、大人は様々な遊びを取り入れることが必要であることを示している。また、幼児がどのように動きを多様に習得していくかについて、「体のバランスをとる動き」

「体を移動する動き」「用具などを操作する動き」の順で説明し、幼児期の年齢ごとに経験したい遊びや動きを示している。表3

は、幼児期に幼児期運動指針(2012)を基に、筆者が作成した。

表3 幼児期に経験したい動きと遊び

年齢	動き	遊び
3歳から4歳	<p><b>体のバランスをとる動き</b> 立つ、座る、寝転ぶ、起きる、回る、転がる、渡る、ぶら下がる、など</p> <p><b>体を移動する動き</b> 歩く、走る、はねる、跳ぶ、登る、下りる、這う、よける、すべる、など</p>	<p>自分から進んで何度も繰り返すことを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外での滑り台</li> <li>・ブランコ</li> <li>・鉄棒</li> <li>・巧技台</li> <li>・マット など</li> </ul>
4歳から5歳	<p><b>用具などを操作する動き</b> 持つ、運ぶ、投げる、捕る、転がす、蹴る、積む、こぐ、掘る、押す、引く、など</p>	<p>友達と一緒に運動することを楽しんだり、ルールや決まりを作ることにもしろさを見いだしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとび</li> <li>・ボール遊び など</li> </ul>
5歳から6歳	<p><b>体のバランスをとる動き</b></p> <p><b>体を移動する動き</b></p> <p><b>用具などを操作する動き</b></p> <p>をよりなめらかに遂行できるようにする</p>	<p>友達と共通のイメージを持って遊んだり、目的に向かって集団で行動したり役割分担して遊ぶようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールをつきながら走るなど基本的な動きを組み合わせた遊び</li> </ul>

このような視点を考慮し、園生活においては、保育教諭が幼児の年齢や発達に側して、動きが多様化できるよう遊びや生活を構成していく必要がある。しかし、幼児の発達は必ずしも一様ではないので、一人一人の発達の実情を捉えることに留意していきたい。

### (2) 多様な動きを楽しむために

幼児期運動指針(2012)では、幼児期における運動は、適切に構成された環境の下で幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に体を動かすことが大切であるとされている。遊びとしての運動は、大人が一方向的に幼児にさせるのではなく、幼児が自分の興味や関心に基づいて進んで行うこと、自分たちで考えて工夫し挑戦できるようにしていくことで、主体的に関わることができるということが述べられている。幼児にとっての運動は、主体的な遊びとしての運動であることが大切であり、主体的に遊びを楽しむことが、体を動かす上で重要ではないかと考える。本研究においても、幼児が様々な遊びに主体的に関わることで多様な動きを経験できるようにしたい。

### 3 環境構成について

(1) 互いのイメージを共有して遊ぶ環境構成  
教育・保育要領において、幼児は身近な環境から刺激を受け、心の中にあるイメージを様々に表現していることが述べられている。幼児は友達と園生活を重ね、共通の経験をする中で次第にイメージを共有し合い、相手と一緒に見立てをし、目的やストーリーを持って遊ぶことを楽しむようになる。保育教諭は、幼児のイメージがどのように遊びの中に表現されているかを理解し、幼児同士が互いのイメージを受け入れ、遊びを工夫することができるように、道具や遊具、素材を用意し環境を構成していくことが大切だと思われる。

また、河邊(2020)は、ごっこ遊びにはテーマに合わせた拠点としての「場」が必要であり、幼児が自分たちで空間を仕切るなど場を見立てられるような環境も大切だということを述べている。

本研究において幼児が友達とイメージを共有する遊びは、ごっこ遊びに発展することが予測され、幼児が「場」からイメージを持ったり、イメージに合わせて「場」を選んだりすることができるように、環境構成を工夫していく必要があると思われる。

#### (2) 多様な動きを経験できる環境構成

吉田(2022)は、今ある遊びの実態に即して変化を加えることで、遊びの面白さが変わり多様な動きを引き出す可能性があることを述べ、表にまとめている(表4)。

表4 遊びの変化や発展

—多様な動きを引き出す工夫—

視点	変化
人数を変える	個(一人)から複数, 集団へ
空間を変える	広さ—狭さ, 高さ—低さ, 傾斜, 動線など
図形を変える	○, △, □, 直線, 曲線など
方法を変える	回数, やり方など

出典 吉田(2022)

互いのイメージを共有する遊びにおいても人数やメンバー、遊ぶ場、遊具や用具、幼児の動線や、遊び方のルールを変えるなど環境を再構成していくことで遊びの内容に変化が生まれ、遊びの中で生まれる体の動きにバリエーションができるのではないかと考える。その際、幼児の遊びのイメージに沿って変化を加えることで、イメージが広がり遊びを楽しむ中で、新たな動きを経験することができるのではないかとと思われる。

本研究においても、今ある環境を再構成していくことで遊びを展開していくことができるようにし、その中で幼児が多様な動きを経験できるようにしていきたい。また、多様な動きを経験する中で怪我や事故がないよう、安全に配慮した環境構成にも留意し、安全面について幼児と一緒に確認し、研究を進めていきたい。

#### (3) 戸外ならではの環境構成

教育・保育要領において、戸外は室内とは異なり、解放感を感じながら思い切り体を動かすことができることや、幼児の興味関心を喚起させる自然現象があることから、幼児が戸外で遊ぶことの必要性が指摘されている。

また、秋田(2019)は、戸外遊びの特性はその多様性にあり、土や砂場、芝生、様々な遊具、道具などの多様な環境が、子どもの経験を豊かにしていくことを述べている。このようなことから、戸外は幼児が思い切り体を動かして遊ぶことができることに加え、興味関心をもって多様な環境に関わり、様々な経験をすることができると考えられる。さらに、戸外遊びは、戸外ならではの木や落ち葉などの自然物、遊具や道具、場、光や風などの自然現象から幼児がいろいろなイメージを持つことができるのではないだろうか。

本研究においても、そのイメージを持って、友達と様々な遊びを楽しむことができるように環境構成を工夫していきたい。

#### 4 援助の工夫について

(1) 互いにイメージを共有して遊ぶための援助  
河邊(2020)は、幼児のごっこ遊びが充実するためには、幼児のイメージを汲み取り、実現に導く保育者の援助が不可欠であることを述べている。充実したごっこ遊びは、あるテーマの下、「役割見立て」「モノ見立て」「場の見立て」の三つが関連し、メンバー間の見立ての相互理解ができていく状況であることを説明している(図2)。そして、保育教諭は幼児の遊びの様子をよく見て理解し、三つがうまく関連できるよう、また幼児同士の相互理解ができるよう援助の可能性を探っていく必要があることを述べている。

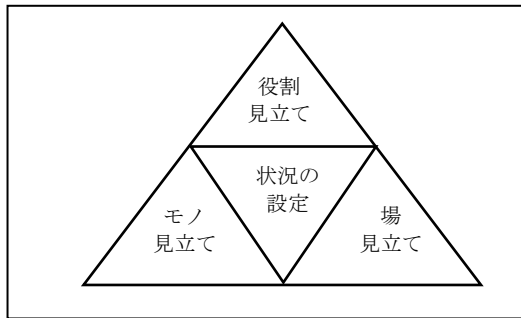


図2 ごっこ遊びの構成要素 出典 河邊(2020)

本研究においても、幼児が互いにイメージを共有して遊ぶことができるように、これらの三つの関連を意識しながら、イメージに沿った言葉かけや、材料の提供、遊びの内容を提案するなど、援助を工夫していきたい。

(2) 保育マップ型記録や動画等の記録を活用した援助

保育環境図に幼児の遊びの様子を書き込むことで、戸外遊び全体を俯瞰でき、どの場所で、どの仲間と、どのような遊びをしているかを確認できると考える。本研究では、それを基に幼児と会話し、イメージを膨らませたり遊びの内容を一緒に考えたりするなど、援助に生かしていきたい。また、遊びの様子を動画や写真で撮影し、遊びの中で聞き取ることができなかった友達との会話や、やりとりを振り返ることで、幼児理解と援助につなげていくことができると考える。それを基に幼

児への言葉かけや、友達とのやりとりの仲立ちなど、イメージを共有して遊びを楽しむことができるように援助していきたい。

(3) 多様な動きの観察表を活用した援助

幼児が遊びの中で多様な動きを楽しんでいるか読み取る上で、幼児がどのような体の動きをしているか観察することが必要だと思われる。観察する上で、杉原(2014)がまとめた基礎的な運動観察表をもとに、本学級の幼児の実態や遊びの内容を考慮して多様な動きの観察表を作成した(表5)。

表5 多様な動きの観察表

姿勢・移動系の動き	動きが見られたら○	操作系の動き	動きが見られたら○
・走る		・運ぶ	
・登る, 降りる		・持ち上げる	
・跳ぶ, 跳びこす		・積む, のせる	
・スキップする, はねる		・押す	
・すべる		・投げる	
・乗る		・掘る	
・ぶらさがる		・ひく, ひっぱる	
・寝転ぶ, 起き上がる		・ころがす	
・くぐる		・ける	
・かわす		・うける, 捕る	
・踏む		・まわす	
・わたる		・振る, 振り回す	
・入り込む		・ささえる	
・ころがる		・うつ	
・はう			

観察表に記入する際は、動画や写真を活用し、遊びの後に記録していく。あまり見られない動きについては、遊びの中で経験することができるように、幼児のイメージに沿って取り入れるなど、援助を工夫していきたい。また、保育教諭が体の動きに着目した言葉かけをするなど、幼児自身が体の動きも意識して遊びを楽しむことができるよう援助を工夫していきたい。



## Ⅶ 保育実践

### 1 検証保育の全体計画

実践	日程	副題	題材	ねらい	活動内容
1	11/28	楽しい園庭にしよう	当山こども園園庭クイズにチャレンジ!	・園庭の中の今まで遊んだことがない場所にも興味を持つ。	・テレビに映し出された園庭のスポット写真をみんなで見て、どの場所か当てるクイズをする。
2	11/30		わくわくする園庭の名前を考えて地図を作ろう!	・自分たちで園庭の名前を考えることで遊びに期待を持つ。 ・園庭の地図作りを通してどの場所でどのような遊びができるか期待を持つ。	・大きい模造紙に、みんなで考えた園庭の名前やスポット写真を貼る。 ・地図は部屋に掲示し、新しい遊びを考えたら絵や字で表し貼っていく。
3	12/8	いろいろな道具や素材で遊ぼう	どんな形?どんなさわり心地?いろいろな道具や材料で遊んでみよう!	・いろいろな道具や材料に触れて遊ぶことで、様々な動きを楽しむ。	・タイヤ、ゴム、段ボール、ホースなどに触れ、それらを使って転がしたり、引っ張ったりして遊ぶ。 ・初めて使う道具に関しては、安全な使い方をみんなで確認する。
4	12/12		どんな遊びができるかイメージしてみよう!	・いろいろな道具や材料を使い自分なりのイメージを持って遊び、様々な動きを楽しむ。	・タイヤ、ゴム、段ボール、ホースなどを組み合わせたり、それらを園庭の様々な場所で使うことで、家や車トンネルなどそれぞれのイメージを持って遊ぶ。
5	12/15	友達と遊びを考えて試してみよう	当山ランドパークでどんな遊びができるかな?	・友達と遊びのイメージを出し合うことで、様々な動きを楽しむ。	・いろいろな道具や材料、園庭の様々な場所、自然ものなどからイメージを持ち、気の合う仲間とそのイメージを出し合って遊ぶ。
6	12/19		当山ランドパークオープン準備中①	・友達と遊びのイメージを共有し、そのイメージに近づけることができるよう相談して遊ぶ。	・気の合う仲間と遊びのイメージを共有し、イメージに近づけることに必要な材料や素材を相談して使う。 ・気の合う仲間といろいろな材料や園庭の自然ものなどを使った装飾や、絵や色を付け加えるなどして、イメージを表現して遊ぶ。
7	12/20		当山ランドパークオープン準備中②	・友達と遊びのイメージを共有し、遊びの内容を工夫する。 ・戸外において、友達と考えた遊びの中で体を動かすことを楽しむ。	・気の合う仲間と遊びのイメージを共有し、いろいろな道具や材料、素材を工夫して使うなど、遊びの内容を相談する。 ・おばけやしき、温泉屋さん、タイヤの車、魚釣り、サッカーごっこなど、自分たちで考えた遊びを実際に試し、体を動かして遊ぶ。
8	1/6	友達と考えた遊びの中でいろいろな動きを楽しもう	当山ランドパークの遊びを思い出そう!	・冬休み前に経験した遊びを思い出し、友達と相談することで期待を持つ。	・みんなで園庭マップや自分たちの遊びの動画を見て振り返り、楽しかったことや、これから準備することを相談する。
9	1/10		当山ランドパークオープン準備中③	・戸外において、友達と考えた遊びの中で体を動かすことを楽しむ。	・当山ランドパークオープンに向けて友達と準備をし、試しながら体を動かして遊ぶ。 ・気の合う仲間と考えた遊びについて写真を使ってみんなに紹介する。
10	1/11 本時		当山ランドパークオープン! みんなで体を動かして遊ぼう!	・戸外遊びにおいて様々な遊びをすることで、自ら多様な動きを楽しむ。	・自分の興味のある遊びのコーナーで遊び、いろいろな体の動きを楽しむ。 ・楽しかったことや、発見した体の動きを発表して遊びを振り返る。

### 2 検証保育

(1) 題材名 「園庭に楽しい遊び場を作ろう!」

(2) 題材として取り上げた理由

本学級の幼児は、戸外で遊ぶことが好きな子と室内での遊びを好む子がいるが、戸外ならではの解放感を味わったり、自然に触れたり、思い切り体を動かしたりすることで、幼児の身体諸機能の発達により促されると考える。そこで、園庭に興味を持ち、自分たちのイメージした遊びを作り出すことで、主体的に戸外遊びを楽しみ、その中で生まれる様々な遊びを通して多様な動きを経験することができるのではないかと考え本題材を取り上げた。

(3) 互いのイメージを共有した遊びの中で多様な動きを楽しむ姿を読み取る視点

動画や写真を基にした振り返りや多様な動きの観察表の活用を通して、友達とイメージを共有した遊びや多様な動きを楽しんでいるか読み取り、環境構成や援助に活かしていく。

(4) 実践の保育展開

	○遊びの内容    ◎子どもの姿	保育教諭の願い   ★援助   ◇環境構成
【実践1・2】	<p>○園庭のスポット写真を見てどこか当てるクイズをする。</p>  <p>◎どの子どもクイズを楽しんでいた。 ◎「ここで鬼ごっこしたことあるよ」「アフリカマイマイがいるところだよ」など、自分の経験を話していた。</p> <p><b>図3 テレビ画面を使ったクイズの様子</b></p> <p>○園庭にわくわくする名前を付けて地図を作る。 ◎遊園地などをイメージして名前を考えたり、地図に絵や文字を描いたりして楽しんでいた。</p>	<p><u>園庭のいろいろな場所に興味を持ってほしい。</u> <u>今まで園庭でどのように遊んでいたか振り返り、これからの遊びに期待を持ってほしい。</u></p> <p>◇テレビの画面で映し出すことで興味を持ってクイズに参加できるようにする。 ★クイズの途中で幼児がつぶやいた言葉を拾い、全体に知らせ共有できるようにする。 ◇大きな紙に園庭のスポットの写真を貼り、部屋に掲示しておくことで新しい遊びを考えたら絵や文字を書き込み、地図を元に園庭での遊びに期待が持てるようにする。 ◇園庭の名前を考えたら紙に書いてポストに入れられるようにする。 ★園庭の名前についてそれぞれ考えた名前を組み合わせることで決めることができるように提案する。</p>
【実践3・4】	<p>○戸外でタイヤ、ホース、ゴムに触れて遊ぶ。 ◎いろいろな道具の特性に気付き、転がす、引っ張る、くぐる等、様々な動きを楽しんでいた。</p>  <p>◎タイヤを転がしたり、上に乗って跳ねたりと様々な動きを楽しんでいた。</p>  <p>◎固定遊具の下で段ボールと新聞紙を使い家の中のお風呂を作り遊んでいた。</p> <p>ここは陰だから家の中ね！</p> <p><b>図4 いろいろな道具や素材を使って遊ぶ様子</b></p>	<p><u>いろいろな道具を使い戸外で体を伸び伸びと動かして遊んでほしい。</u></p> <p>◇戸外遊びの時間を十分に設け、タイヤやホースなどいろいろな道具を準備し興味を持った道具に触れて遊ぶことができるようにする。</p> <p><u>いろいろな道具の特性に気付き、多様な動きを楽しんでほしい。</u></p> <p>★安全面に配慮しつつ、幼児が思いついた遊び方を認め、「車みたいだね」などイメージが膨らむような言葉かけをして、より多様な動きが楽しめるようにする。</p> <p><u>戸外の自然に触れ遊びを楽しんでほしい。</u></p> <p>★葉っぱや木の実を集める幼児の姿を全体に伝え、他の幼児も自然に興味を持てるようにする。 ★自然に対する幼児の気付きの発言を拾い、光や風などの自然事象にも興味を持てるようにする。</p> <p><u>園庭の場やいろいろな道具・素材からイメージを持ち、遊びを楽しんでほしい。</u></p> <p>◇段ボールや牛乳パック等のいろいろな素材を準備する。 ★場や、道具、素材からイメージした遊びを受け止め、遊びの振り返りの時間にみんなに伝え共有できるようにする。</p>
【実践6・7】	<p>○友達とイメージを共有して遊ぶ中で、体を動かすことを楽しむ。</p>  <p>◎段ボールでサッカーのゴールとキーパーを作り、サッカーごっこで蹴ったりボールを投げたりして楽しんでいた。</p>  <p>◎花火をイメージして並べた牛乳パックを、保育教諭と跳び越えて跳ねたり、走ることを楽しんでいた。</p> <p><b>図5 イメージを共有して仲間と遊ぶ様子</b></p>	<p><u>いろいろな道具や素材を使って、気の合う仲間とイメージを共有して遊んでほしい。</u></p> <p>◇園庭での遊びの地図を掲示し、遊びの内容やそこで遊ぶ友達の名前がわかるようにした。 ★幼児同士の会話に混ざり、イメージが膨らむような言葉かけをしたり、材料等を提案したりする等の援助をする。</p> <p><u>イメージした遊びの中で様々な動きを楽しんでほしい。</u></p> <p>◇活動の前に前回の遊びの様子の動画を見る時間を設け、どのような動きをしているか全体で振り返る。 ★保育教諭も一緒に遊び、様々な動きを幼児と楽しむことで多様な動きについて伝える。 ★遊びの様子を動画や写真で撮影し、楽しんでいる動きや、あまり経験していない動きの実態を把握し、様々な動きが経験できるように遊びの内容や材料を工夫する。</p>
評価・課題	<p>・園庭のいろいろな場所に興味を持ち、自分たちで遊びを考えたと進んで戸外に出て遊ぶ姿が多く見られるようになった。 ・安全に配慮しつつ、いろいろな道具や材料を使って遊ぶ姿を受け止めたことで、様々な動きを楽しむことができた。 ・イメージを共有できるように話し合う時間を設けたことで、遊び方やルールなどを決めて遊ぶようになってきた。 ・あまり経験していない動きを遊びに取り入れる際、保育教諭の意図と幼児の主体性とのバランスに難しさを感じた。</p>	

### 3 本時の保育実践『とうやまランドパークオープン！みんなで体を動かして遊ぼう！』

#### 保育指導案

令和5年1月11日（水）9：00～10：00  
 ゆり組 男児18名 女児12名 計30名  
 園場 こずえ

#### (1)前日までの幼児の姿

冬休み前の遊び「とうやまランドパーク」を思い出し、気の合う仲間と遊びに必要な道具や素材を使って遊びのコーナーを作り、試しながら体を動かすことを楽しんでいる。全体での話合いで、自分たちの作ったコーナーの楽しい所を紹介したことで、「さかなつりに行きたい！」「お化け役になってみたい！」などの声も聞こえ、他のコーナーでも遊ぶことに期待を持っている。

#### (2)本時のねらい

- ・戸外で様々な遊びに進んで参加し、多様な動きを楽しむ。

#### (3)保育仮説

- ・戸外遊びの場において、タイヤや段ボールなど様々な道具や素材を用意することで、友達とイメージを共有して遊びを楽しみ、多様に体を動かすことができるだろう。
- ・遊びの中で、幼児一人一人の遊びの様子や体の動きに応じて、言葉かけや遊びと一緒に工夫するなどの援助を行うことで、多様な動きを楽しむことができるだろう。

#### (4)教材(道具・素材)について



図6 様々な遊びや動きに繋がる道具と素材

- ・道具は、遊びの汎用性が高いタイヤ、ホース、縄、ゴム等を用意する。タイヤは単体でも転がしたり上に乗ったりして遊ぶことができ、また複数を積み重ねたり並べたりできることから、様々な遊びや動きに繋がる事が予想され、今回幼児が初めて触れる道具として取り入れた。また、本学級の幼児が遊びの中であまり経験していない引く、はねる、くぐるなどの動きを引き出すことを予測し、縄、ホース、ゴムを用意した。
- ・身近な素材は、これまで幼児が遊びの材料として使ってきた段ボール、牛乳パック、新聞紙を用意した。室内の遊びでこれらの素材を使い、家や玩具を作った経験がありイメージをより膨らませやすい材料として有効であると考えた。

#### (5)展開(実践10・本時)

時間	○活動の流れ ・子どもの姿	★保育教諭の援助 ◇環境構成
8:30	・活動前に水分補給や排泄を済ませておく。	◇戸外の天候や危険な箇所がないか確認する。 ◇道具や材料を準備し、遊びのコーナーを設置する。
8:35	○ゆり組の部屋で話合い ・グループごとに並んで集まる。 ・保育教諭の話聞く。 ・「とうやまランドパーク」のテーマ「みんなで体をいっぱい動かして遊ぼう」を確認し、今日の活動の流れについて知る。	★とうやまランドパークの遊びのテーマを伝えることで体の動きを意識して遊ぶことができるようにする。 ★今日の活動の流れを伝える。 ◇活動の流れをホワイトボードに掲示する。
8:45	○戸外に出る準備 ・帽子、水筒を準備しマスクは外しておく。 ・ジャンパーなどの上着は調整して着脱する。 ・靴に履き替え水筒を水筒かけにかける。	★戸外に出ることを避ける幼児には個別に対応し、戸外での遊びの楽しさを伝えて誘うなどの援助をする。 ★戸外に出たら並んで待つように伝える。
8:50	○遊びのコーナーの紹介 ・これまで考えた「とうやまランドパーク」の遊びのグループごとに遊び方を紹介する。 ・安全に遊ぶために各コーナーの遊び方のルールを認める。	◇遊びのコーナーを回って説明を聞く時間を設け遊び方を全員で共有できるようにする。 ★道具の使い方や遊び方などについて全員で確認し安全に気をつけて遊ぶことができるようにする。 ★自分が遊びたいコーナーに行き遊び方を伝える。
9:00	○戸外遊び(魚釣り、温泉屋さん、サッカーごっこ、くるまごっこ、貨物船ごっこ、お化け屋敷、鬼ヶ島の鬼退治) ・それぞれの遊びの中で、様々な体の動きを楽しむ。 ・友達とやりとりしながら互いにイメージを共有して遊ぶ。 ・他のコーナーにあまり興味を持たずに同じコーナーで遊び続ける幼児がいる。	★それぞれの遊びでどのように遊んでいるか確認し、イメージを持っている色々な動きを楽しめるような言葉かけをしたり、一緒に遊びの内容を工夫したりするなどの援助をする。 ★同じコーナーで遊び続ける幼児にはじっくり遊んでいる姿も認め、そのコーナーでの遊びの深まりや体の動きの変化を観察し見守る。(今後の遊びの中で別の遊びにも目を向けられるように繋げていく) ★遊ぶ幼児がいないコーナーでは保育教諭が率先して遊

<p>9:35</p> <p>9:40</p> <p>9:50</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びのコーナーでそれぞれ人数が異なり、あまり遊ぶ幼児がいないコーナーもある。</li> <li>・遊ぶ時間が終わる5分前の合図を聞き、時計を確認する。</li> </ul> <p>○休息(水分補給)</p> <p>○集まる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外の木の下にグループごとに並んで集まる。</li> </ul> <p>○遊びの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の遊びについて楽しかったことや、発見した体の動きについて話し合う。</li> </ul> <p>○活動終わりの挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の活動への期待を持ち、活動を終える。</li> </ul> <p>○片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当コーナーの仲間と協力して片付けを行う。</li> </ul>	<p>ぶことで幼児の興味を引きつけられるようにする。</p> <p>★遊ぶ時間が後5分で終わることを伝え、遊びに集中している気持ちを少しずつ遊びが終わることに切り替えられるようにする。</p> <p>◇保育教諭が先に集まる場所で待ち、視覚的に伝える。</p> <p>★幼児が楽しかったことや発見した体の動きについて発表したことをまとめ、全員で共有できるようにする。</p> <p>★保育教諭が観察した一人一人の遊ぶ姿や、遊びの中でどのような動きを楽しんでいたかを全員に伝え、遊びを振り返ることができるようにする。</p> <p>★明日以降の遊びの予定について知らせ、楽しみにできるようにする。</p> <p>◇いろいろな道具や素材を整理することができるよう遊びのコーナーごとに片付ける場所を設ける。</p> <p>★自分たちで片付ける姿を認め、進んで片付けができるようにする。</p>
-------------------------------------	--	--

(6)本時の幼児の遊びの様子



図7 おばけやしき・温泉屋さんでの遊びの様子

おばけやしきでは、段ボールで転がるおばけ、箱に入って動くおばけになって動いた後に、ゴムの蜘蛛の巣が張り巡らされた通路をくぐるというように、様々な動きを楽しんでいた。温泉屋さんでは、牛乳パックの段差を飛び越えたり、木からジャンプしたりなど体を動かした後で温泉に入って疲れを癒やすというイメージで楽しんでいた(図7)。



図8 サッカーごっこ・貨物船ごっこの遊びの様子

サッカーごっこは、段ボールで作ったゴールに新聞紙で作ったボールを蹴り入れることを楽しんでいた。国別のチームに分かれるなどワールドカップを見た経験を遊びに取り入っていた。貨物船ごっこはあまり幼児が集まらなかったが、保育教諭の言葉かけをきっかけに、荷物を高く積み上げることを楽しんでいた(図8)。

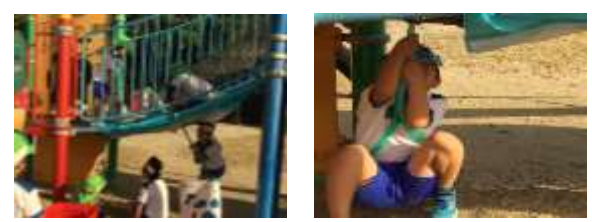


図9 さかなつりの遊びの様子

さかなつりの遊びは、固定遊具の網の部分や周りの色などから海をイメージし、ちょうどよいホースの長さを利用し魚役の人を引っ張って釣りあげるといった動きを楽しんでいた。釣る人と釣られる人で動きに違いがあり、役を交代して楽しんでいる様子が見られた。他にも網の部分に行くまでに階段を上ったり、滑り台を滑って下に移動する等の動きも見られた(図9)。



図10 くるまごっこ・鬼ヶ島の鬼退治での遊びの様子

くるまごっこは、コースが長く最後まで引くことが大変な様子が見られたが乗客を降ろして引くなど自分たちで工夫して遊んでいた。また「ガソリンいれてきまーす」と言って水筒の水を飲むなど、イメージを膨らませて遊んでいた。鬼ヶ島の鬼退治では、砂に埋められたきびだんごを探して鬼に投げる遊びだが、砂を掘ってきびだんごを埋めることに夢中になる子もいた。穴をほって入れた後に、スコップで平らにするために砂をたたくなどの動きも見られた(図10)。

評価・課題

- ・一人一人が戸外での遊びに進んで参加し、それぞれのコーナーで友達とイメージを共有して遊ぶことを楽しんでいた。
- ・それぞれのコーナーでいろいろな動きを経験し、さらに幼児のアイディアで新たな動きが生まれていた。
- ・遊びを始める前に全員で遊び方や安全面について確認したことで、いざこざや怪我などなく楽しく遊ぶことができた。しかし、説明の時間が長く遊ぶ時間が少なくなってしまったので、地図や動画等を使って説明するなどの方法も今後取り入れていきたい。
- ・遊びのコーナーが多く保育教諭の配置が少なかった為、遊びが発展するような援助が十分にできなかった。

## Ⅷ 結果と考察

### 1 作業仮説(1)の検証

戸外遊びの場において、互いのイメージを共有して遊ぶ環境構成を工夫することで、友達と様々な遊びを楽しみ、進んで体を動かすようになるだろう。

#### (1) 戸外遊びに期待を持つ環境構成

##### ① 手立て

実践2では園庭の地図を作り、部屋の中の幼児が目にとまりやすい場所に掲示しておいた。また園庭にわくわくする名前を付ける話合いや、地図を見ながら、園庭でどのような遊びができるか学級全体で話し合う場を設けた。

##### ② 結果

地図を掲示しておいたことで、幼児が新しい遊びを考えた際に、地図に遊びの絵や文字を書き込むことができ、発表などで伝えることが難しい幼児もイメージした遊びを学級全体に伝えることができた。地図を見ている幼児同士で園庭の様々な場所でイメージを持った遊びについて会話する姿が見られた(図11)。



図11 園庭での遊びの地図

また、園庭の名前を話し合った際は、「とうやまランドにしたい」「パークがいい！」など名前を考え、その場で発言できなかった幼児は手紙に書いて保育教諭が準備したポストに入れるなど期待を持つ様子が見られた。園庭でどのような遊びをしたいか話し合いの中で尋ねると、「本物のお化けが出

てくるところを作りたい!」「穴を掘って水をためて遊びたい!」等、自分なりのイメージを持って遊びを考え、楽しみにしている姿が見られた。

##### ③ 考察

部屋に常に園庭の地図を掲示しておいたことや、園庭の名前をみんなで考える場を設けたことは、園庭をみんなで楽しい遊び場にするという学級全体の雰囲気を作る上で有効であったと思われる。また個々が考えた遊びを話し合いの場で発表したり、地図に絵や文字で書き込めるようしたりするなど(図11)、一人一人に合わせて自分の思いや考えを全体に知らせる場を設けたことで、全員が戸外での遊びに参加する意欲を持ち、期待を持つことに繋がったと思われる。「〇〇がしたい!」等の幼児の発言があったことから、地図を見たり話し合ったりするなど、学級全体でイメージを共有することができるような環境構成は、戸外での遊びに期待を高める環境として有効であったと考える。

#### (2) 友達とイメージを共有して遊ぶ環境構成

##### ① 手立て

実践3では、タイヤ、縄、短いホース、ゴム紐等のいろいろな道具と、段ボールや牛乳パック、新聞紙等の素材を準備し、それらを使って戸外で遊ぶことができるようにした。また実践6から、幼児がよりイメージを表現することができるように絵の具マーカー、画用紙、ガムテープ等も準備し戸外で使えるようにした。

##### ② 結果

いろいろな道具や素材を紹介すると、最初は個々で興味のある道具や素材を手に取り、遊ぶ姿が見られた。一人でタイヤを転がしたり、ゴム紐を引っ張ったりなど特性を感じながら遊んでいたが、次第に友達と共通のイメージを持って遊ぶようになっていった(図12)。



図 12 イメージを共有して遊ぶようになる様子

他にも、段ボールを被り、しゃがんで歩き、おばけになる、ゴム紐をレーザーに見立ててくぐる、ホースを釣り竿に見立てて魚役の友達と引っ張り合うなど、友達とイメージを共有して体を動かして遊ぶ姿が見られた。また、ガムテープと新聞紙でボールを作ってサッカーをしたり、絵の具、マーカー、画用紙等を使い、お化け屋敷の壁を黒くしたり、温泉屋さんの看板を作ったりするなどイメージを形にするために友達と工夫して遊ぶ姿も見られた(図 13)。



図 13 イメージを形にしようとする様子

さらに、検証前と検証後で、戸外で体を動かす遊びにおける幼児の友達と遊ぶ様子や、遊びの内容について読み取り調査を行ったところ、以下のような結果となった(表 6)(図 14)。

表 6 戸外で見られた幼児の遊び

検証前に見られた遊び	検証後に更に見られた遊び
雲梯、登り棒、鉄棒、竹馬、やっこ、ぼっくりげた、フラフープ、鬼ごっこ、ブランコ、短縄跳び、長縄跳び、固定遊具での遊び、砂遊び	おばけやしきごっこ、車ごっこ、貨物船ごっこ、温泉屋さん、サッカーごっこ、魚釣りごっこ、鬼ヶ島の鬼退治ごっこ、タイヤ転がし

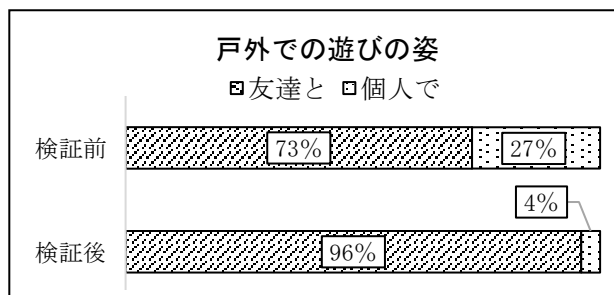


図 14 保育教諭による読み取り調査

### ③ 考察

これまでの戸外遊びでは、砂遊びの道具や、竹馬、縄跳びのように目的や使い方があらかじめ決まった道具を準備することが多かった。しかし、今回の実践では、今まで遊びに取り入れたことが少ないタイヤ、ホース、ゴム等を準備し、目的や使い方を決めず、自由な発想で使えるようにしたことで、道具や素材の特性から自分たちでイメージを作り上げて遊ぶことができたと考える(図 12)。そして、それぞれイメージを共有した仲間と遊びを考えていくことで様々な遊びが生まれたと思われる(表 6)。また、段ボールを被りしゃがんで歩いておばけになる、ゴム紐のレーザーをくぐる等の遊びの様子からも進んで体を動かしていたと考える。

さらに、日頃室内で使う絵の具や画用紙を戸外でも使えるようにしたことで、戸外遊びの中で友達とイメージを共有して工夫する姿が見られるようになり(図 13)、戸外で友達と遊ぶ幼児が検証前より増えたと思われる(図 14)。

これらのことから、いろいろな道具や素材を準備したことは、幼児が戸外において友達とイメージを共有して様々な遊びを楽しむ、進んで体を動かすことができる手立てとして有効であったと考える。

### (3) 戸外でイメージを持って遊ぶ環境構成

#### ① 手立て

戸外遊びの場所を限定せず、それぞれのイメージに沿って好きな場所で遊ぶことが出来るようにした。その際、その場所でどのよう

に遊ぶか保育教諭が観察したり、幼児に聞いたりして、その場所での安全な遊び方について確認した。

## ② 結果

園庭の好きな場所で遊ぶことができるようにしたことで、それぞれの場所のイメージを持って考えた遊びが見られた。お化け屋敷は園庭の木々が並んだ場所にコーナーを作り、魚釣りごっこは、固定遊具のアスレチックの網の部分から海をイメージし、そこを利用して遊びを楽しんでいた(図 15)。

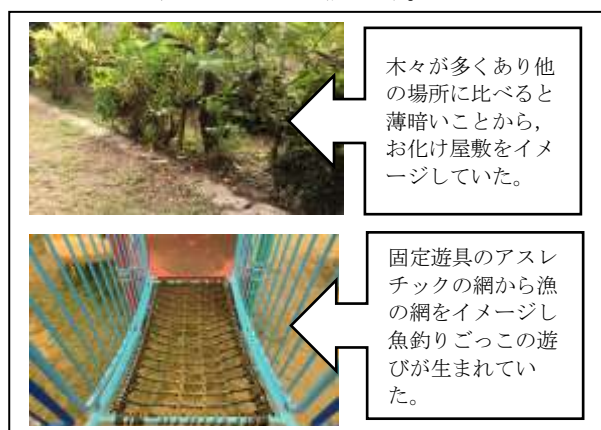


図 15 園庭の木々が並ぶ場所と固定遊具の網

また、検証前はブランコや固定遊具の周りでの鬼ごっこなど特定の遊びをする子が多く遊ぶ場所に偏りが見られたが、今回の実践では、いろいろな場所でイメージを持った遊びを楽しむ姿が見られ(図 16)、全員が進んで戸外に出て遊ぶようになった(図 17)。

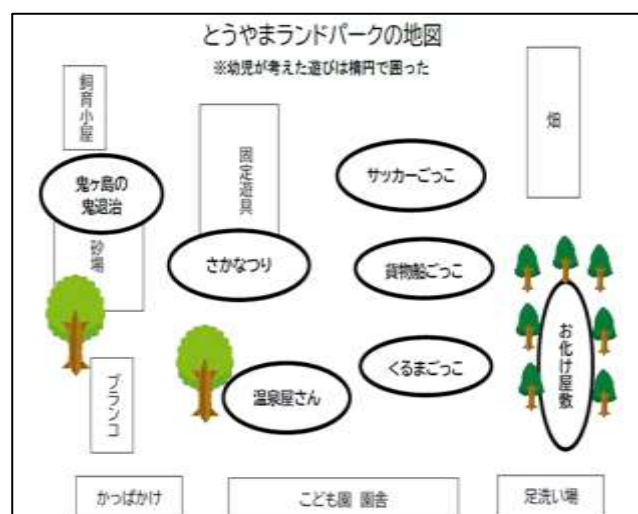


図 16 園庭のいろいろな場所で見られたイメージを持った遊び

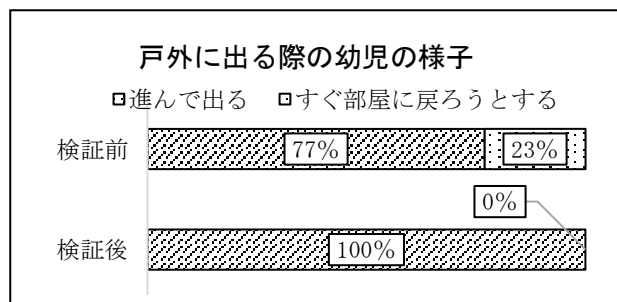


図 17 保育教諭による読み取り調査

今回の実践では、それぞれの幼児の場に対するイメージを大切に、遊び方を限定しなかったことで、固定遊具等の従来の使い方と違う遊びが生まれたと考える(図 15)。また、幼児が自分たちのイメージに沿って遊ぶ場を決めたことで、いろいろな場所で様々なイメージを持った遊びが見られたことや(図 16)、自分で好きな場所を選ぶことで、進んで戸外に出て遊ぶ幼児が増えたことから(図 17)、園庭の好きな場で遊ぶことができる環境構成は、進んで戸外に出て、友達と様々なイメージを持った遊びを楽しむことができる手立てとして有効であったと考える。

## (4) 戸外で様々な遊びを楽しむ環境構成

### ① 手立て

実践 10 では、園庭を「とうやまランドパーク」という遊び場に見立て、7つのコーナーで遊ぶことができるようにした。また、それぞれのコーナーを準備したメンバーで遊び方を説明する場を設けた。

### ② 結果

7つのコーナーから自分の興味のあるコーナーを選んだり、様々な遊びに参加したり友達の説明を聞いて、いろいろな動きに挑戦する姿が見られた(図 18)。



図 18 「とうやまランドパーク」の遊びの様子

また、遊びの後の振り返りでは、楽しかった遊びの内容や、体の動きについて話す幼児の姿が見られた(表7)。

表7「とうやまランドパーク」の感想

☆きびだんごをスコップで穴を掘ってうめたことが楽しかった。  
 ☆車を引っ張ったことが楽しかった。  
 ☆お化け屋敷で蜘蛛の巣をくぐるのが楽しかった。  
 ☆今日初めてさかなつりごっこをして楽しかった。

③ 考察

実践9まで、気の合う仲間とイメージを共有した遊びを充分楽しんだことや、他の友達が考えた遊びの紹介を聞いたことで、とうやまランドパーク全体に興味を持つようになり、様々な遊びに進んで参加する姿が見られたと考える(図18)。また、幼児の感想から、遊びの中で体を動かすことを楽しんだり、今まで経験していなかった遊びに参加したりしていたことがわかった(表7)。このようなことから、他の友達が考えた遊びのコーナーに参加する場を設けたことは様々な遊びの中で進んで体を動かす手立てとして有効であったと考える。

2 作業仮説(2)の検証

戸外遊びを通して、一人一人の幼児の遊びに応じてイメージに沿った言葉かけ等の援助を工夫することで、多様な動きを楽しむことができるだろう。

(1) 幼児理解に基づく援助

① 手立て

動画等の記録を基に一人一人の幼児の遊ぶ姿や、友達とのかかわり等の実態を把握し、一人一人の思いや考えを受け止め、遊びの内容を提案したり、一緒に遊びを進めるなどの援助を工夫した。

② 結果

一人一人の幼児の思いに寄り添い、遊びが充実するような援助をしていったことで、A児とB児の戸外で遊ぶ姿に変容が見られた。検証前、検証後の2人の幼児の姿と、保育教諭の具体的な援助について表8にまとめた。

表8 A児とB児の変容の様子

	A児	B児
検証前の姿	A児は運動的な遊びより折り紙や空き箱製作などの遊びが好きで戸外に出てもすぐに部屋に戻ろうとする姿が見られた。	B児はこれまでも自分なりの遊びのイメージを持って遊ぶ姿がよく見られたが、友達とのかかわりが少なかった。
保育教諭の援助	空き箱製作が好きなA児を段ボールや新聞紙を使った遊びに誘った。サッカーボール、ゴール、キーパーを作り「折り紙を貼りたい」「観客席の看板を作りたい」というA児のアイデアを受け止め必要な材料を渡し、戸外でも製作ができるようにした。	B児の遊びに他の幼児も興味を持ってほしいと思い、学級全体に紹介した。またB児のイメージを大切に、「絵の具で色を塗りたい」「この材料を組み合わせた」という考えに沿ってイメージを形にするために、一緒に製作をして、どのような遊びにするか相談した。
検証後の姿	戸外での遊びを毎回楽しみにし、たくさんの友達が仲間に入りうれしそうにしていた。サッカーごっこを通して蹴る、かわす、投げる等の動きを楽しんでいた。	B児が形にしたものを「貨物船みたい」と他の幼児が名前を考え、それをB児も気に入り、貨物の船のイメージで他の幼児と荷物を運んだり、積み重ねたりという遊びを楽しんでいた。

③ 考察

A児の製作遊びが好きだという特徴や、B児の友達とのかかわりが少ないという発達段階を保育教諭が捉え、それぞれの思いや考えを丁寧に受け止め、遊びに誘ったり必要な材料を提供したり、一緒にイメージを形にするなどの援助を工夫したことで、遊ぶ姿の変容が見られるようになり、進んで多様な動きを楽しむことに繋がっていったと思われる。

このようなことから、幼児理解に基づいて援助を工夫することは、友達とイメージを共有して遊び、多様な動きを楽しむ手立てとして有効であったと考える。

(2) 体の動きに着目した言葉かけによる援助

① 手立て

全体の話合いの中で、保育教諭が遊びの中で大切にしたいことを幼児に伝える言葉かけを行った。また、遊びの中で、幼児のイメージに沿った言葉かけを、意図的に行う等の援助を行った。

② 結果

いろいろな体の動きを経験することの大切さを伝える言葉かけを行ったことで、自分たちが考えた遊びのコーナーでどのような体の



動きをしているか考える姿が見られ、それを保育教諭と地図に書き込み、「自分たちのコーナーには引っ張る動きもあるよ！」と友達に伝える姿が見られた(図 19)。



図 19 多様な動きの大切さを伝える様子

また、保育教諭のイメージに沿った言葉かけをきっかけに、遊びの中に動きを新しく取り入れたり、動きのバリエーションが増えたりする様子が見られた。(図 20)

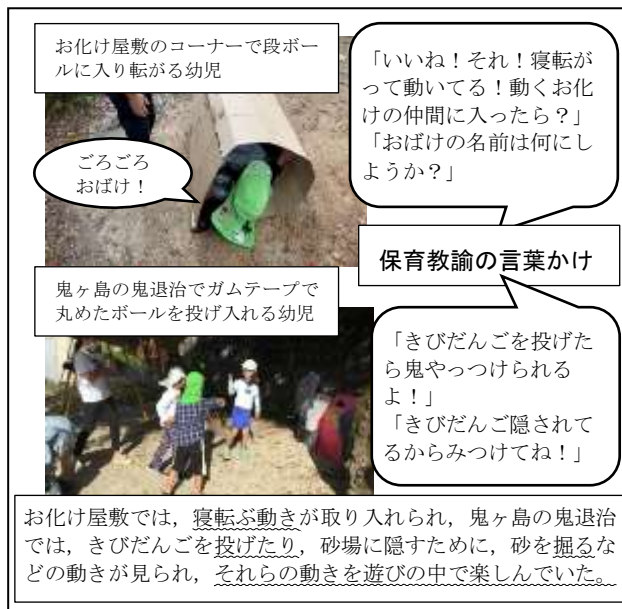


図 20 イメージに沿った言葉かけの様子

### ③ 考察

多様な動きを経験してほしいという保育教諭の意図を言葉かけによって伝えたことで、幼児自身も体の動きに着目し、遊びの中でいろいろ

な動きを発見する姿が見られるようになったと考える(図 19)。また、幼児のイメージに沿って言葉かけをしたことで、おばけや鬼退治など役になりきって、いろいろな動きを楽しんでいたと思われる(図 20)。本実践でテーマとしている「多様な動き」が、言葉かけの工夫によって幼児に伝わったことで、自ら多様な動きを楽しむ姿が見られるようになったと考える。

### (3) 幼児同士のイメージを繋げる援助

#### ① 手立て

戸外遊びの中で幼児と関わったり、動画等の記録を基に一人一人の遊びの様子を把握し、幼児同士が遊びのイメージを共有することができるように、具体物を準備する等の援助を行った。

#### ② 結果

動画等で記録したことで、その場では聞き取ったり、見たりすることができなかった友達との会話、やりとり等の遊びの様子を知ることができた。その中で見られたC児の変容の様子を図 21 にまとめた。

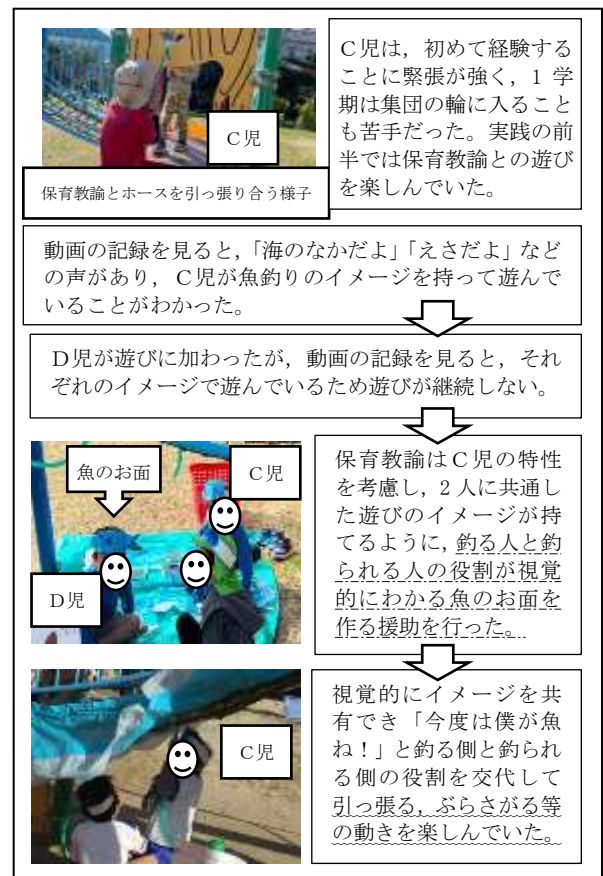


図 21 C児の変容の様子

### ③ 考察

幼児同士が共通の遊びのイメージを持つことができるように、視覚的にわかりやすい具体物を準備して援助を行ったことで、互いのイメージが繋がり、役割を意識した遊びの中で引っ張る、ぶら下がる等の動きを楽しむ姿が見られるようになったと考える(図 21)。このようなことから、戸外遊びを通して一人一人の遊びの様子や特性に応じて具体物を準備するなどの援助を工夫することは、幼児同士がイメージを共有して遊び、多様な動きを楽しむ手立てとして有効であったと考える。

### 3 本研究を通して

本研究の実践の中で、どの子も意欲的に戸外に出て「とうやまランドパーク」の遊びを楽しみ、進んで体を動かしていた。幼児が主体的に遊びを楽しむことが、体を動かすことを楽しむ上で大切であると改めて実感した。実践前と実践後で、多様な動きの観察表を用いて、全体の幼児の戸外遊びにおける体の動きを読み取り比較した結果、実践後には様々な動きが見られるようになった(表9)。これは、本実践で幼児が友達と一緒にイメージを膨らませて遊びを工夫し、その中でいろいろな動きを楽しんでいたからだと思われる。本研究の対象である5歳児がいろいろな動きを経験する為には、体を動かす遊びにおいて、「友達と共通のイメージを持って遊んだり、目的に向かって集団で行動したり、役割分担して遊ぶようになる」という発達段階に合わせて、環境構成や援助を工夫することが必要であると実感した。このようなことから、幼児が進んで多様な動きを楽しむためには保育教諭が、幼児の主体的な遊びを大切に、年齢や発達段階に応じた遊びを理解して学級や個々の実態に応じて工夫していくことが重要ではないかと考える。

表9 戸外遊びで見られた幼児の体の動き

姿勢・移動系の動き	実践前	実践後	操作系の動き	実践前	実践後
・走る	○	○	・運ぶ	○	○
・登る, 降りる	○	○	・持ち上げる		○
・跳ぶ, 跳びこす	○	○	・積む, のせる		○
・スキップする はねる		○	・押す		○
・すべる	○	○	・投げる	○	○
・乗る	○	○	・掘る		○
・ぶらさがる	○	○	・ひく, ひっぱる		○
・寝転ぶ, 起き上がる		○	・ころがす		○
・くぐる	○	○	・ける		○
・かわす	○	○	・うける, 捕る		
・踏む			・まわす	○	○
・わたる	○	○	・振る, 振り回す		○
・入り込む		○	・ささえる		
・ころがる		○	・うつ		
・はう					

## Ⅹ 研究の成果と課題

### 1 成果

- (1) 幼児のイメージを大切に戸外遊びを工夫したことで、進んで戸外に出て友達と様々な遊びを楽しむようになり、多様な動きの経験に繋げることができた。
- (2) 一人一人の幼児の特性や発達段階を捉え、個に合わせて援助を工夫したことで生き生きと遊びを楽しむようになった。

### 2 課題

- (1) 遊びを展開していく中で、保育教諭の意図を、幼児の主体的な遊びと関連づけながら取り入れる工夫をしていきたい。
- (2) 「とうやまランドパーク」のような遊びを園全体で取り組むことができるように年間指導計画に位置づけていきたい。

#### 【主な参考文献・引用文献】

- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 (2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 (2012) 『幼児期運動指針』 (R3. 11 月閲覧)  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/undousisin/1319771.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm)
- ・幼児期運動指針策定委員会 著 (2013) 『幼児期運動指針ガイドブック 毎日、楽しく体を動かすために』 文部科学省
- ・杉原隆 河邊貴子 編著 (2014) 『幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びのなかで子どもは育つ-』 ミネルヴァ書房
- ・秋田喜代美 他 編著 (2019) 『園庭を豊かな育ちの場に』 ひかりのくに株式会社
- ・吉田伊津美 著 (2022) 『子どもの興味や関心を引き出す運動遊びの援助を考える』 幼児教育じほう 8, 12-18
- ・河邊貴子 田代幸代 編著 (2020) 『遊びが育つ保育〜ごっこ遊びを通して考える』 フレーベル館